

T-ACT 盆踊りプロジェクト (15016A)

つくばアクション
プロジェクト

すぎやま も え こ
杉山 萌依子 (人文・文化学群 比較文化学類 2年)



Thema : つくばで暮らす全ての人が、一緒に熱くなる瞬間を

つくばには、海外出身の方や、県外出身者を多く含む筑波大生が暮らしています。そうした外部からやって来た方も、同じ土地で暮らす一員として、地域の皆様のすぐ隣で一緒に生きています。人と個性が豊かなつくばだからこそ、共に「生活」し「楽しみ」、今を「生きる」文化の中で、心から一体となる瞬間をつくりたいと考え、本プロジェクトを立ち上げました。外部からやって来た方にとってつくばが大切な土地になること、そして、地域の皆様にその存在を認めてもらい、一緒に文化をつくりながら「生きる」ことを実感してもらいたいと考えました。その成果として去る10月、新しいお祭りを開催しました。

Activity : 大学外での新しい盆踊りの企画・運営／大学内での日本文化体験会

テーマで述べた目標を実現すべく、選んだ題材が「盆踊り」です。ただ見ているだけのお祭りではなく、新しくやってきた人が特別な技術や経験がなくても、輪に入り、お祭りの担い手になれるのが盆踊りの特長だと考えています。このお祭りを実施するため、6月から学内で週2回の踊りの場を設け、留学生やさまざまな方に参加していただくと共に、お祭りの構想を深めました。加えて、学内やLALAガーデンにて本番に向けたプレイベントの実施を行ったほか、地域の中学校のお祭りへ、踊りの指導にも伺いました。コンテンツの構成、各種手続き、外部への依頼・連携、予算の運用、備品の確保、会場作りにMCなど、授業では学べない数多くの経験をしました。また6・7月には、盆踊りをはじめとしたその他の日本文化も留学生に体験してほしいと考え、茶道同好会・邦楽部のご協力で、体験会を実施しました。



盆LIVEグッズなど使用デザイン

Main Event : 盆LIVE

そして、2015年10月3日(土)、研究学園駅前公園にて「盆LIVE」と銘打ち、新しいお祭りを開催しました。プロジェクトのテーマに従い、つくばという土地で「生きる」ことの一部として「生の」「生きた」文化を「楽しんで」ほしいという意味をこめ、「LIVE」感のあるお祭りを目指し、その場での「生音」演奏を取り入れました。好きなアーティストのLIVEのように楽しんでほしいという意味もあります。

当日は、第1回目のお祭りでありながら常時100人程が会場にいる状態となり、地域の家族連れの方々にも多くご参加いただきました。メンバーである留学生に檜の上で踊りの見本をしてもらったり、生演奏をしてもらったり、また地域の方にも屋台の出店、パフォーマンスや演奏といった運営に携わっていただきました。



2015年10月3日開催 盆LIVEの様子

Next : 今後の展望

お祭りが無事に開催できたのは、数々の場面で大学外の地域の皆様にご協力いただいたおかげです。開催に向けて立ち上げた実行委員会は、未熟な部分も多かったですが、さまざまな皆様のご厚意や励まし、ご協力に支えられ、無事にお祭りを開催することができました。

第1回が成功を取めたことで、現在は来年度の開催を計画しています。つくばには、皆が個性を合わせることで、新たな文化を生み出す可能性がたくさんあります。この活動を通じて、人々が隣で生きる人を知って尊重し合いながら、つくばを今よりもっと誇り、愛することができれば幸いです。今後つくばの一員として、毎日暮らすこの土地の文化を支えていく活動ができるよう、努めてまいります。